

「震災遺構検討会議 (大川小学校旧校舎)」の結果概要

平成29年1月19日

大川小学校旧校舎に関する
震災遺構検討会議(第4回)資料

震災遺構検討会議の議題

第1回

- (1)「震災遺構検討会議」の役割・スケジュール
- (2)「震災遺構整備計画」の枠組み(案)
- (3)大川小学校旧校舎の現況と震災遺構整備等に関する各種情報
- (4)震災遺構整備等に関する意見・意向

第2回

- (1)第1回「震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)」を振り返る
- (2)現地視察結果を確認・共有する
- (3)大川小学校旧校舎の現況と震災遺構整備等に関する情報を共有する
- (4)会議の進め方とスケジュールを確認・共有する
- (5)震災遺構(大川小学校旧校舎)整備等に関して協議する

第3回

- (1)これまでの「震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)」を振り返る
- (2)震災遺構(大川小学校旧校舎)の整備等に関して協議する

意見の振り返り

第1回

- 意見は、「整備する周辺施設」、「整備する 運営体制」に概ね集約された。
- その他、「整備をする際に考慮すること」、「伝承・教育の方法」、「伝承・教育の内容」などについて意見を交換した。

第2回

- 第1回で出された意見を基に、「整備する周辺 施設」、「何の為に残すのか・何を伝えるか」について意見を交換した。

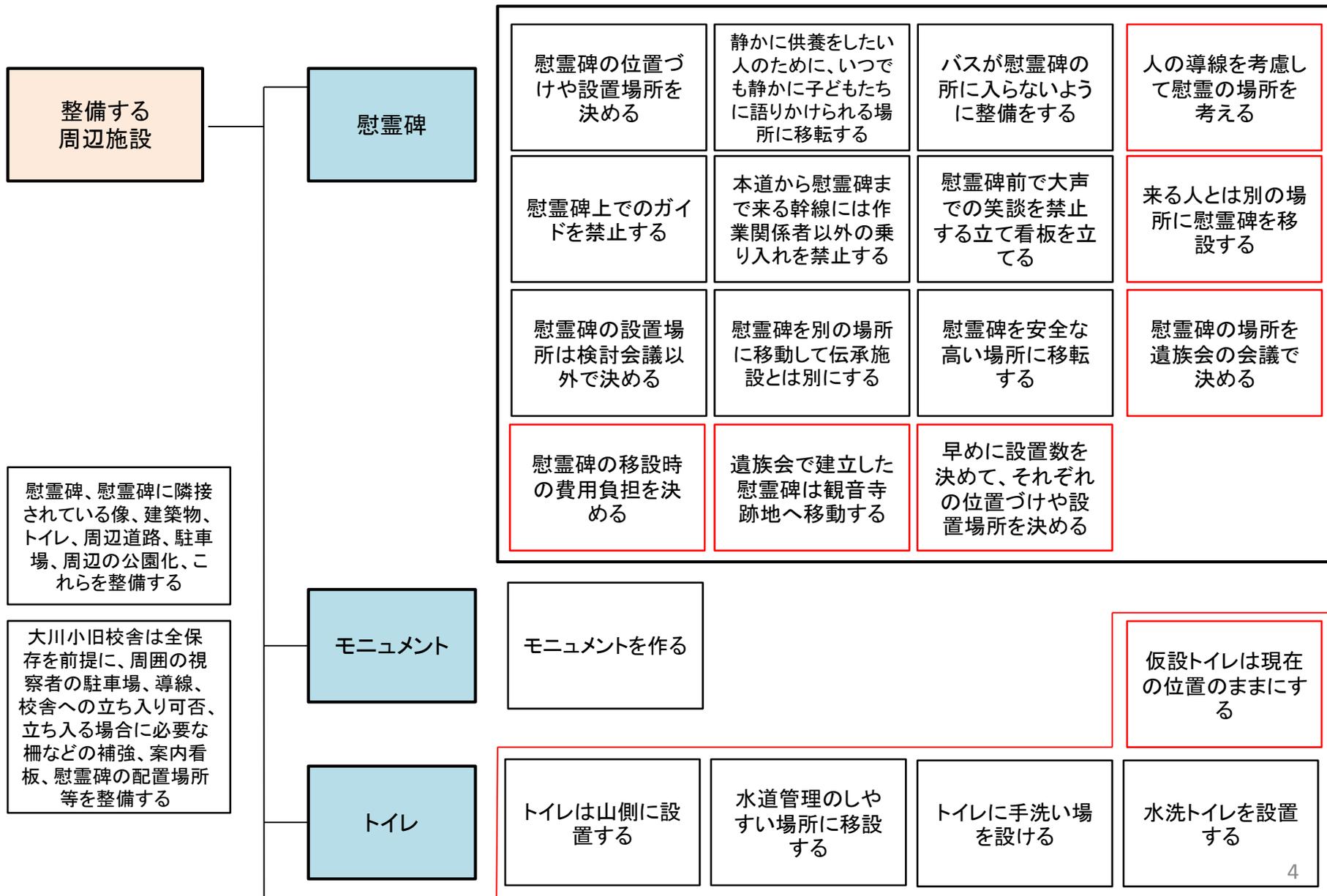
第3回

- これまで出された意見を基に、「旧校舎及び敷地等に関する整備計画ゾーニング」について意見を交換した。

意見の分類

1. 整備する周辺施設
2. 整備する運営体制
3. 整備をする際に考慮すべきこと
4. 伝承・教育の方法
5. 伝承・教育の内容
6. 何の為に残すのか・何を伝えるか

1. 整備する周辺施設



整備する周辺施設

慰霊碑

慰霊碑の位置づけや設置場所を決める

静かに供養をしたい人のために、いつでも静かに子どもたちに語りかけられる場所に移転する

バスが慰霊碑の所に入らないように整備をする

人の導線を考慮して慰霊の場所を考える

慰霊碑上でのガイドを禁止する

本道から慰霊碑まで来る幹線には作業関係者以外の乗り入れを禁止する

慰霊碑前で大声での笑談を禁止する立て看板を立てる

来る人とは別の場所に慰霊碑を移設する

慰霊碑の設置場所は検討会議以外で決める

慰霊碑を別の場所に移動して伝承施設とは別にする

慰霊碑を安全な高い場所に移転する

慰霊碑の場所を遺族会の会議で決める

慰霊碑、慰霊碑に隣接されている像、建築物、トイレ、周辺道路、駐車場、周辺の公園化、これらを整備する

大川小旧校舎は全保存を前提に、周囲の視察者の駐車場、導線、校舎への立ち入り可否、立ち入る場合に必要なる柵などの補強、案内看板、慰霊碑の配置場所等を整備する

モニュメント

モニュメントを作る

仮設トイレは現在の位置のままにする

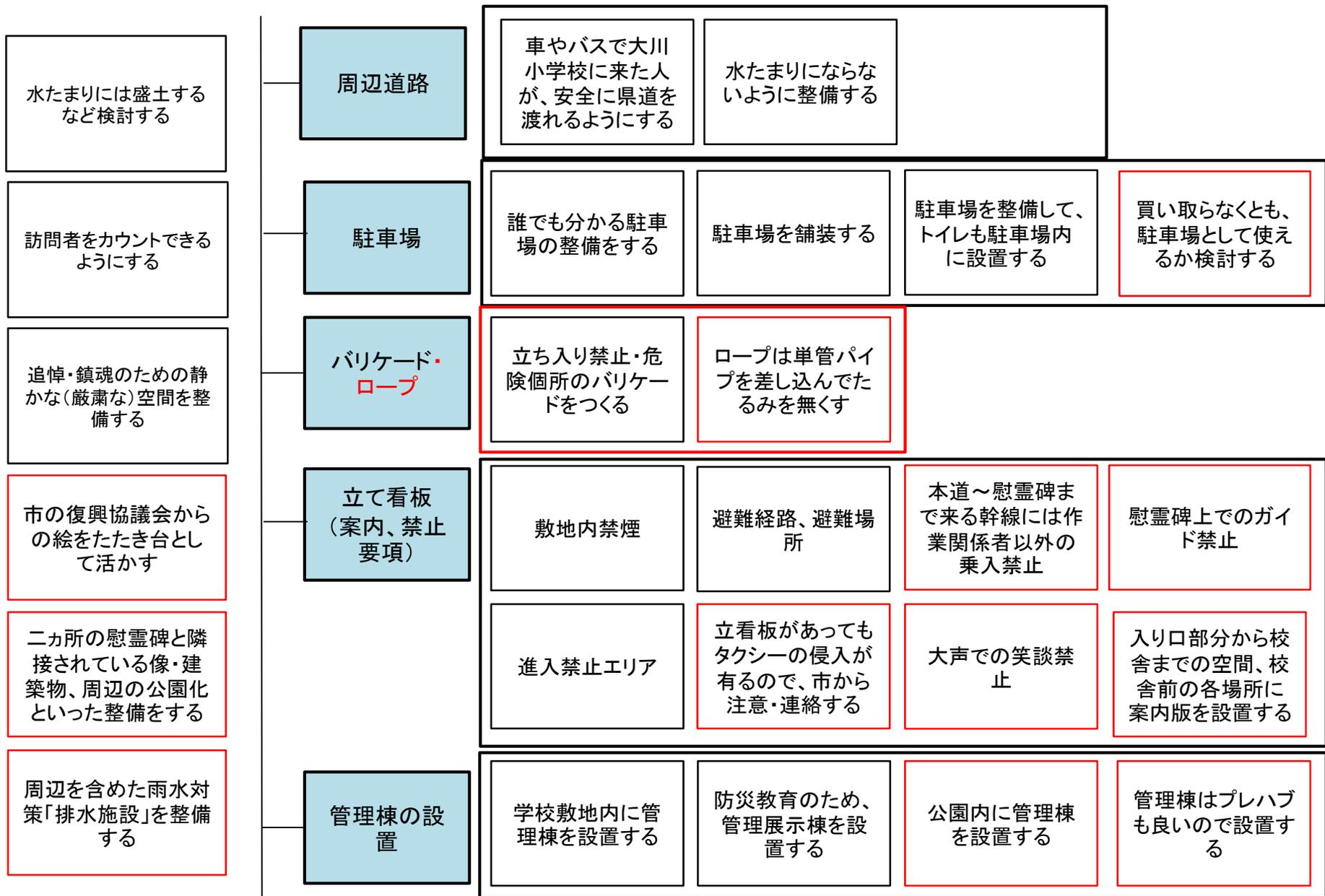
トイレ

トイレは山側に設置する

水道管理のしやすい場所に移設する

トイレに手洗い場を設ける

水洗トイレを設置する



「震災遺構」の現状
保全・巨大津波が形
成した「周辺環境」を
保全する

「放送設備」を
整備する

体育館跡・野外ス
テージ・シイタケ栽培
の山も含め「遺構群」
として遺す

児童が一行になって
三角地点を目指した
避難路の入口を整備
する

湿地化を防ぐため、
周辺の「雨水排水設
備」の整備をする

資料館・展示
パネル

全てを知ることが
できる総合施設
(情報資料館)を
設置する

事実を伝える展示
パネルを設置する

震災前後の写真
などを掲示して、
語り部がいなくて
もわかるようにす
る

当日の子どもたち
が避難したルート
を表示する

当日の子どもたち
が何をしたかを表
示する

展示スペースを確
保して伝承する場
所を開設する

展示内容に、大川
中学校を加える

釜谷・雄勝の模型
を作り、建物が
あったことを伝え
る

勾配や三角地帯
にかけての道、区
割りなどを再現し
当時を振り返る

津波の高さは目で
見てはっきり分か
るようにする

現校舎を活用し
「雨水対策」「電気
設備」「災害対応設
備」を考えた部屋を
確保する

手作りの雰囲気
での来客者への対
応・企画・展示を
する

震災前の街並み模
型は南浜つなぐ館
でも好評の為、震
災前の街並みや暮
らしも示す

数十年先まで伝え
るために分かりや
すい形で保存・展
示する

震災において被
災状況を物語る
経緯を作成・展示
する

時折ロープに掲示
する写真等の資
料を展示コーナー
に掲示する

1年教室か2年教
室に展示コーナー
を設置する

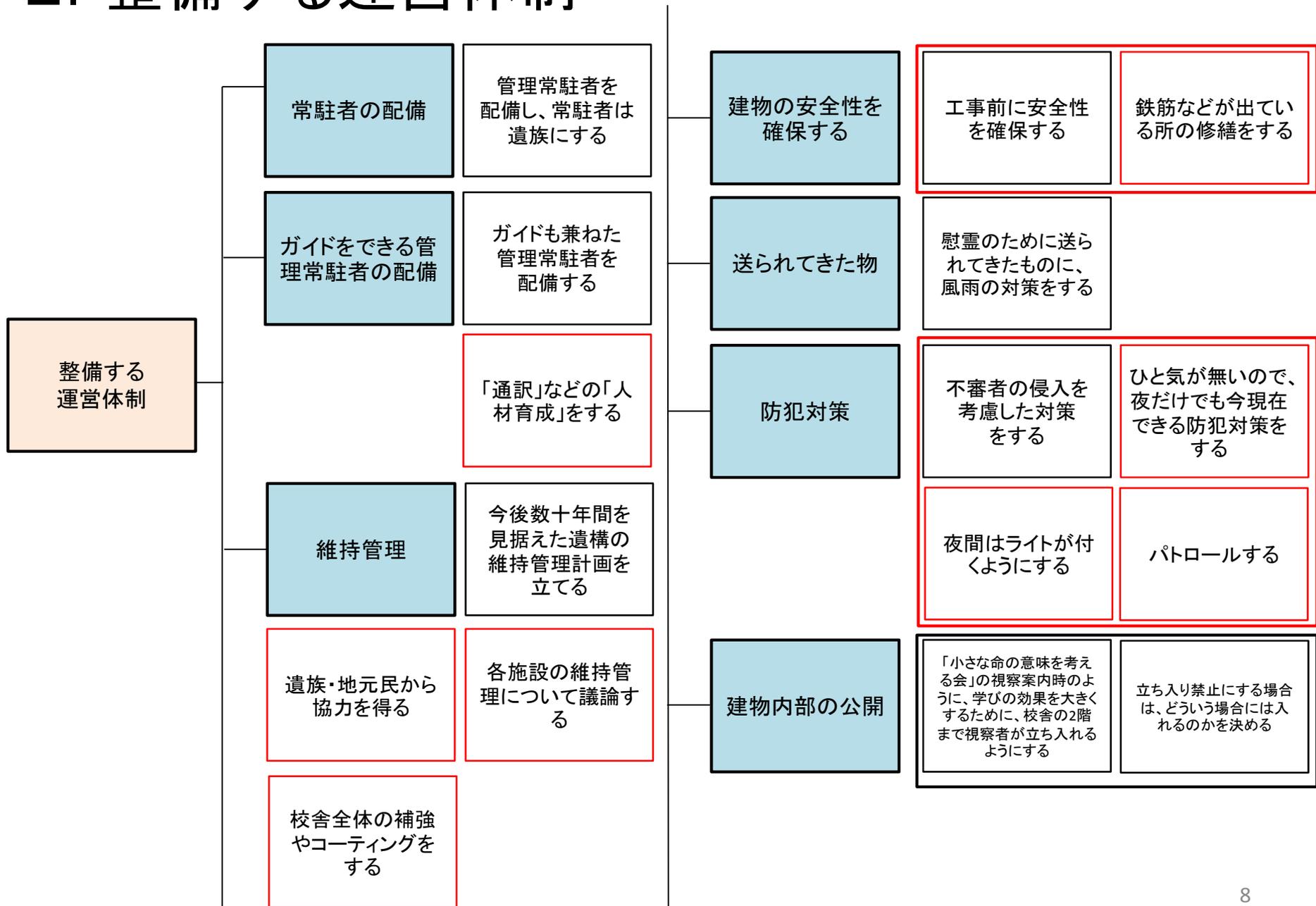
入口

震災遺構エリア利
用者と静かに手を
合わせられる場所
への入口を分ける

社会的なインパクト
を測るため、セン
サー・カウンターと
ソーラーパネルを
設置する



2. 整備する運営体制



掃除

遺族による清掃、ボランティアによる草取り、ゴミ拾いは今後も続けていく

他県の高中生や大学生を、清掃ボランティアとして受け入れる

発信方法

市外の訪問者のために、石巻市以外の他被災地の施設や各場所の役割を明確にする

「大川小」「門脇小」「復興祈念公園」など、それぞれの場所の役割について発信する

土で盛っただけの堤防は砂で溶けたという、河川遡上津波の危険性を発信する

各所で学んでほしい内容や発信方法・目的について議論する

観光バス対策

観光バスが入って来ないようにする

慰霊碑へのバスでの来訪者の駐車対策する

市での防火対策

市での防火対策を考える

慰霊碑に訪れた方への対応について遺族会とも相談する

ハザードマップ

石巻地域におけるハザードマップの更新有無を確認する

津波の規模ごとの浸水予測をする

慰霊と伝承の分離

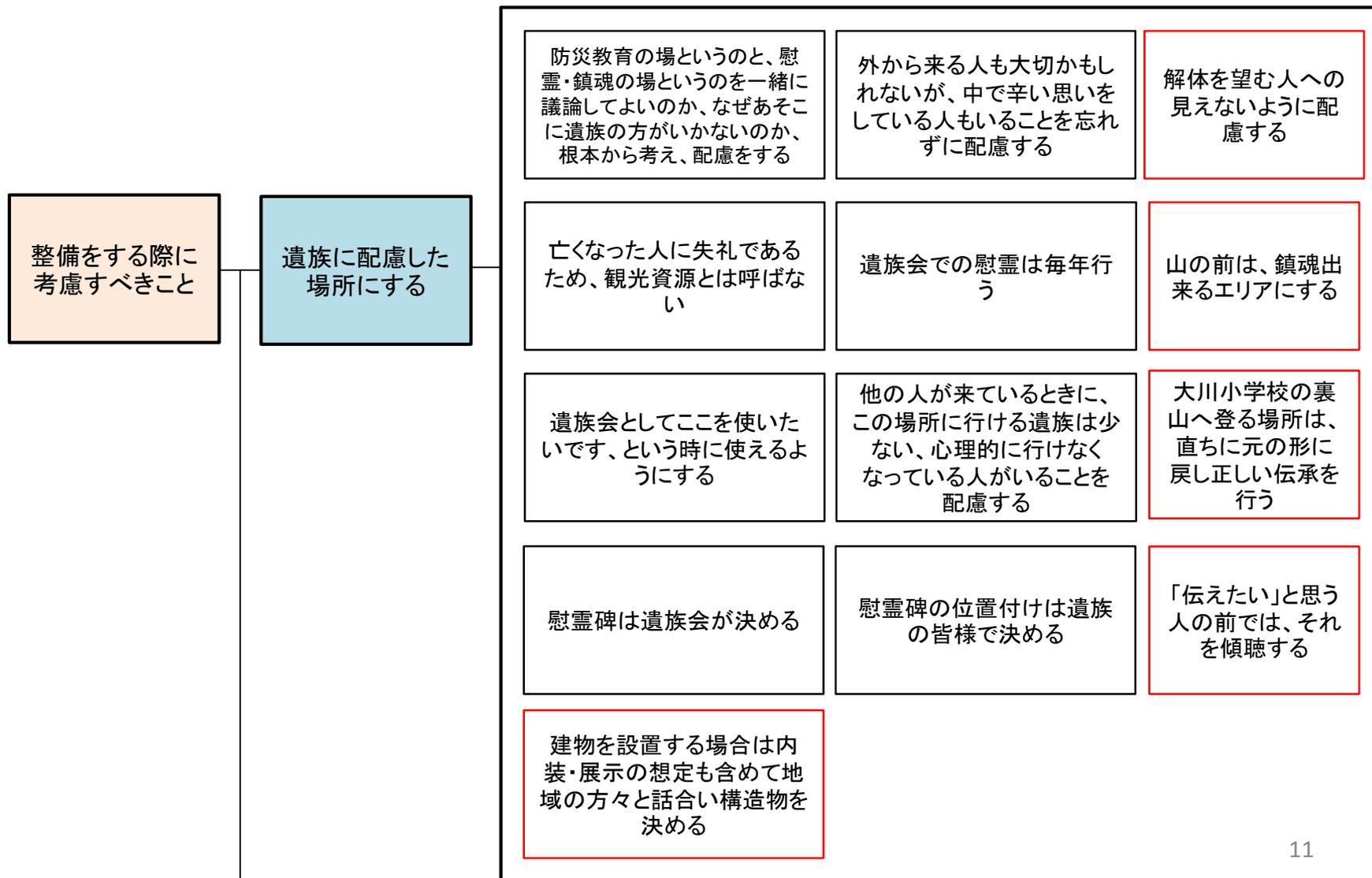
慰霊と伝承の位置
付けは分けて考える

慰霊碑・モニュメント
は検討会議以外で
議論する

慰霊碑等の祈りを
捧げる場と校舎の
防災伝承の場を分
ける

賛成だが、校舎を残すことが決まってから
来る人が増え、朝早くに大型バスで集団で
やって来るなど暴力的な感覚を覚える

3. 整備をする際に考慮すべきこと



地域に配慮した場所にする

地域の中の大川小
と考える

慰霊追悼の場としての環境
整備や旧校舎保存のあり
方について、地域住民と協
議を続ける

釜谷に家があった方たち
に、どうして欲しいか聞く

釜谷の町並み全
体で整備する

見学者に配慮した場所にする

校舎の一部が
見えるようにす
る

応急処置として
ガラスを治す

訪問者の避難
誘導・安全対策
をする

安全に配慮して見
学できるものを作
り、避難ルートを
提示する

広島みたいに訪
れた方が理解で
きるように物を
残す

校舎に手を加
えず事故防止
のための安全
対策を行う

建物・公園の維持管理

建物や南浜の公園の維持
にかかる支出について、将
来の負担も考慮する

本当に防災として残すなら
中途半端なものでは伝えら
れない為、すっかり困う

若者のコスト負
担を避ける

その他

遺族・地域住民としての思いを記録して伝える

現状のまま残す

保存～手を入れるまでの間の対策をする

校舎についての床面・校舎の渡り廊下を今後守るのか、風化を防ぐのかといった中身の話を

ゾーニングの方法・具体案を考える

保存する建物と慰霊を分けて議論を進める

学校・教育・行政は何をすべきか整理する

警報が出たときに、来ている方が逃げる経路・方法がわかるように対処する

「ユネスコ」の教育遺産登録を目指す

駐車場にすることを検討しているエリアは、買い上げられていないので、整備が出来ないのではない

早い段階で予算上の制約を共有し、前向きな議論をする

大川小の本格的な整備までの間は管理棟兼展示スペースのような仮置き施設があると良い

中庭・名前のシールなどは震災前の学校や地域の様子を伝える部分として整備に反映する

石巻の津波火災の起きた背景の科学的実証も含めた「見せ方・残し方」をする

新たな施設を作ること自体が「大惨事」の現場としてそぐわなくなり、静かな川沿いの農村地帯における「祈り」の場としての雰囲気や台無しにしている

大川小学校も出来る限り現状のまま残して行ける方向で検討する

大川小学校は、学びの場として有効利用する

地元人・外部の方の両方の感情面を配慮した形の保存をする

地元の人への配慮と、外部の方には悲惨を伝える為のリアルティーさを両立させる

4. 伝承・教育の方法

<p>伝承・教育の方法</p>	<p>学校の周辺に集落があった事を知ってもらう</p>	<p>子どもたちが待機した場所や、逃げた山について展示する</p>	<p>地域で将来的にどういった伝承活動をしていくのかを検討する。今後、あの校舎をどのように残していくのか、どのような伝承をしていくのかというも、若い子たちの意見も聞き、一緒に活動していく</p>	
<p>当事者ではなくても、伝承活動ができるようにする</p>	<p>宮城県内の被災地の学校、被災を受けていない学校も実際に被災地へ行き、学校教育による伝承をする</p>	<p>校庭で何があったのか事実を明らかにし、それについての解釈・多様な意見をそこに併記しプロセスを記録へ残す</p>		
<p>学校関係の語り部と、地元の語り部の話す内容を統一する</p>	<p>建物があるからそれが防災になるというのは違うので、伝承内容を精査する</p>	<p>学校が終わって帰る時には防災出来ない為、家庭での防災教育をする</p>		
<p>伝承として、バトンを渡す子どもたちの声を聴く</p>	<p>門脇小は津波火災・大川小は遺構を使いながら地域活性へ繋げるといった位置づけを色濃く出す</p>	<p>登下校時は地域と学校が一体となった子どもを守る姿勢を示す</p>	<p>「校舎」自体を用いて震災伝承する</p>	
<p>来る人たちごとの異なるニーズに応じて伝え方を変える</p>	<p>実際に被害があったインパクトがある実物を見て訓練する</p>	<p>「小さな命の意味を考える会」の視察案内時のように、視察者が校舎2階まで立ち入れるようにする</p>	<p>現教員・これから教員になる人・防災減災に携わる人・あらゆる教育に携わる方々へ発信し、伝える</p>	
<p>防災マニュアルをどう防災計画へ活かすかを提示・周知徹底する</p>	<p>来る方の意識の高低を考慮した、防災マニュアルの手本となるものを作る</p>	<p>校舎を見学させる場合には安全な方法にする</p>	<p>校舎内を見て学ぶに際の順路決めをする</p>	

副読本など教材化の検討を進める

地域性の違う人に、マニュアルを通した防災教育を行う

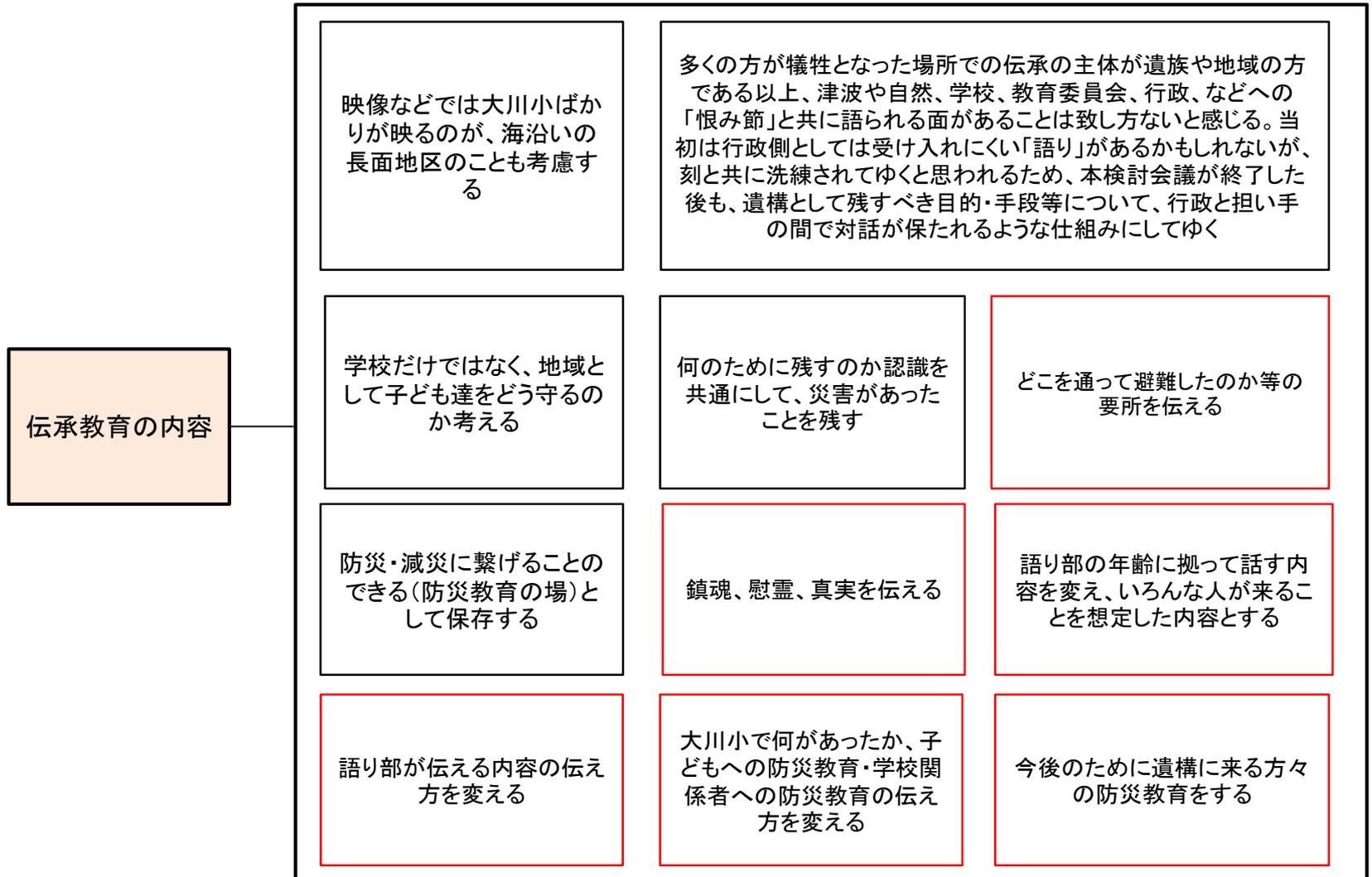
個別検証による普遍的な防災教育をする

卒業生・若い世代を視察へ参加させる

逃げるだけでなく、防災教育のために自分事で捉えさせる

門小・大川小は教育委員会とタイアップして伝承を考える

5. 伝承・教育の内容



追波湾から3、4キロも内陸に位置する『大川小学校』の被災状況と「土地の履歴」を学術的に分析し、「遡上津波」の被害の実態を考察する

出来れば周りの外壁も、元のようにし、学童の避難経路を示す

震災当時にどんなことがあったか目で見て感じてもらう場所にする

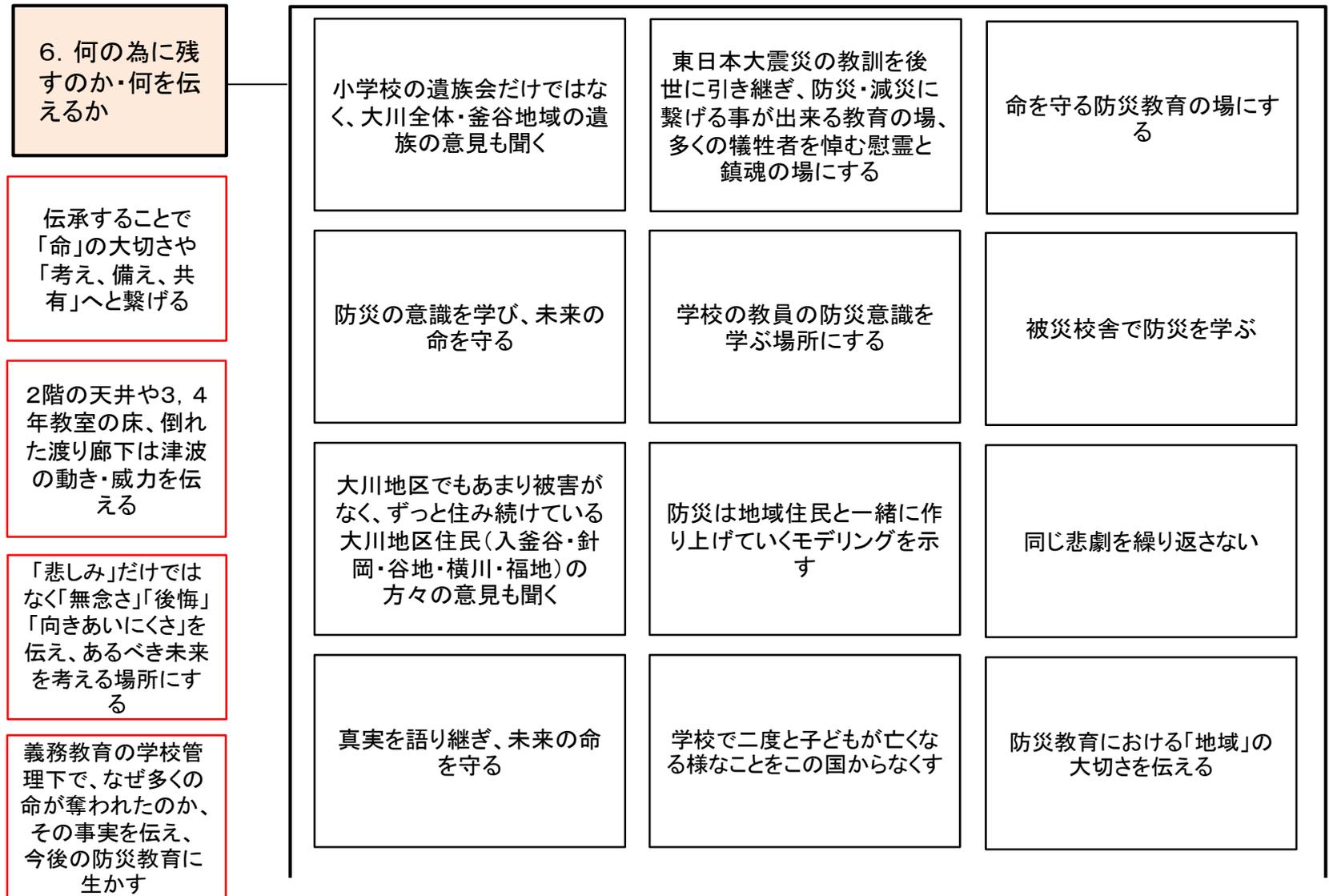
卒業生の声、若い世代の声を反映させる

「命」を守る行動は、学校の教職員・個人はもとより「家族」「地域」も一緒に発災前から考えるべきことと伝える

視察・研修で訪れる国内外の教育関係者が、大川小から何を感じ、何を学んでいるのか調査する

「最悪」の事態を回避するために「情報整理・決断」することの大切さを学べる

6. 何の為に残すのか・何を伝えるか



<p>全国の人たちからのたくさんの支援に対して恩返しをする</p>	<p>危機意識を高める</p>	<p>教育者、企業経営者(管理者)の教育を行う</p>
<p>釜谷の避難実態を残す</p>	<p>避難所として学校を残す</p>	<p>今後同じような悲しみ苦しみを発生させないように、後世に、全国に、全世界へ発信して伝える</p>
<p>津波の力を見て覚えてもらう</p>	<p>三角地帯へ行ったという避難方法は間違っていたという意味合いを形にして残す</p>	<p>防災教育の場所として校舎、体育館を残す</p>
<p>学校を残すことによる伝承の意味合いや効果(防災になるのか。中を見せて何になるのか。残すことはいいけれど果たして防災になるのか。何年もつのか。それまで金をかけていくのか。)が腑に落ちない</p>		<p>20mの防波堤を作らなくとも逃げる意識を伝え、亡くなった方の犠牲が意味のあるものとなる場所にする</p>
<p>中越は建物強化・大川は地震と津波意識を高めること、といった震災遺構の意味合いの違いを伝える</p>	<p>大川小の校舎を見ることで災害時の意識を高める</p>	<p>鎮魂のエリアは当時を振り返られるようにいじらないで形として残し、真実を伝える</p>
<p>頭の片隅に大川小のことがあればすぐに行動できる</p>	<p>川沿いの「大川地区」「北上地区」全体が被災し、地区民に多くの犠牲者が出た「遡上津波」の恐ろしさを伝える</p>	<p>同じ過ちを繰り返さないよう、「大川小学校」の悲劇や「大川地区・北土地区」の津波の惨状を世界へ“発信”する</p>